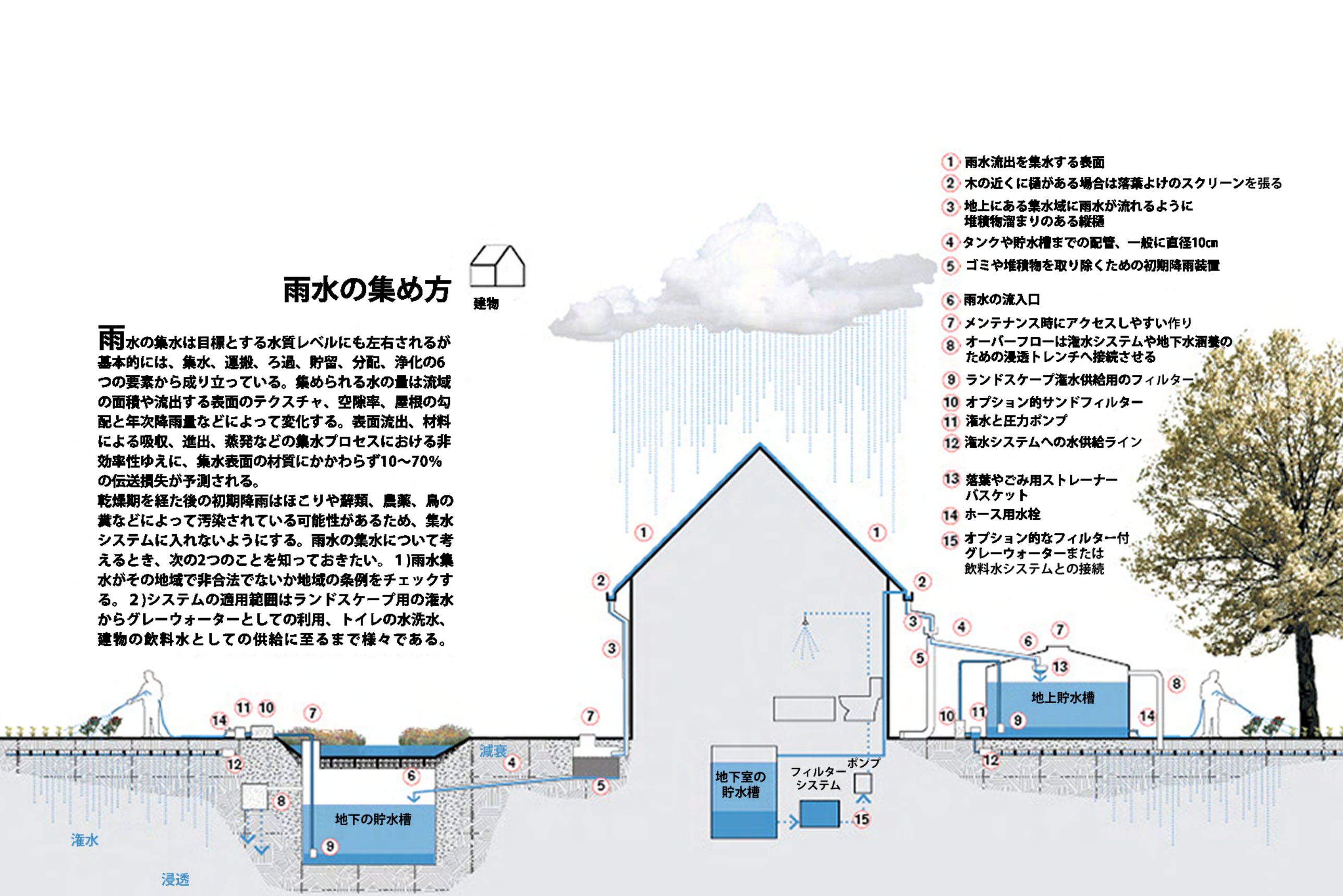
雨水の集め方

建物

雨水の集水は目標とする水質レベルにも左右されるが基本的には、集水、運搬、ろ過、貯留、分配、浄化の6つの要素から成り立っている。集められる水の量は流域の面積や流出する表面のテクスチャ、空隙率、屋根の勾配と年次降雨量などによって変化する。表面流出、材料による吸収、進出、蒸発などの集水プロセスにおける非効率性ゆえに、集水表面の材質にかかわらず10～70%の伝送損失が予測される。
乾燥期を経た後の初期降雨はほこりや薬類、農薬、鳥の糞などによって汚染されている可能性があるため、集水システムに入れないようにする。雨水の集水について考えるとき、次の2つのことを知っておきたい。１)雨水集水がその地域で非合法でないか地域の条例をチェックする。２)システムの適用範囲はランドスケープ用の潅水からグレーウォーターとしての利用、トイレの水洗水、建物の飲料水としての供給に至るまで様々である。